

ベナン共和国独立記念日

安定的民主主義経済の将来に向けて投資パートナーと共に歩む

西アフリカの国、ベナン共和国は、本日、2014年8月1日、第54回目の独立記念日を迎えます。

ベナン共和国大統領ヤイボニ閣下とベナン政府、またベナンの国民を代表して、私は、このめでたい日に、天皇皇后両陛下、安倍晋三総理大臣閣下と日本政府、そして両国の友好関係を深めるために日々貢献して下さっている多くの方々に、心からの感謝のメッセージをお伝えできますことを大変光栄に思っております。

また、ベナンの国民は2011年3月11日、東日本大震災と津波に苦しんだ日本の皆さまを覚え、犠牲者の方達に対し、今も尚、哀悼の意を抱いておりますことをお伝えさせていただきます。

グッドガバナンス

私達は、ヤイボニ大統領率いる政府が、新興経済国を目指してベナンの経済を改革し、政治システムの近代化を図っていることを忘れてはならないと思います。これらの改革や政策の達成に向けて、この度ベナンは、今年の6月17日から19日、フランス、パリにて、経済円卓会議を開催しました。この会議では官民、及び二国間、又は多国間のパートナー達により、様々な開発計画やプロジェクトの資金調達のため、ベナンに120億ドル（US）の支援が約束されました。

当面私達の目標は、経済成長を今後5年間で少なくとも年8%まで伸ばし、現在の投資率の19%を28%まで引き上げることです。

こうした様々な計画支援のために招集されたパートナーの中でも、我が国ベナンは日本が頼れるパートナーであることを知っております。駐日ベナン大使館の兼轄であるアジア・オセアニア地域の国々も同様であることは申し上げるまでもありません。

確かに、1961年の外交関係樹立以来、日本とベナンの良好な協力関係が今日も持続しているのは、両国の最高責任者、ベナン共和国大統領ドクター・ヤイ・ボニ・トマと日本の安倍晋三首相との間で培われた建設的な政治対話をもたらした賜物と言えます。

これらの改革及び政策により経済が一新されたことで確かな成果が出始めていることは大変喜ばしいことで、ベナンはアフリカにおける外国直接投資（FDI）の優先投資国の一つに数えられるようになりました。これは称賛に値することで、これらの改革の結果、ベナンはアフリカにおける平和で安定した民主主義の手本と見なされるようになりました。ベナンはその歴史上一度も内戦を経験しておりませんが、これもひとえに日本を含む皆様

のお蔭、と感謝いたしております。その業績が認められたことからヤイボニ大統領は、一昨年（2012年1～12月）、アフリカの他の国家主席からアフリカ連合の議長に選任され、一年間の任務に当たられました。以来ヤイボニ大統領は、アフリカの平和と民主主義のさらなる強化を図っております。

それでも、アフリカ連合は、依然として国際社会の支援を必要としております。中でも日本は世界の民主主義と平和のために重要な役割を担う国です。

1960年以来、日本とベナン共和国は、長年に渡り非常に良い関係を構築し維持して参りました。そして今日、日本は、私の国の発展努力において無くてはならない大切なパートナーとなっております。

友好的な二国間関係

ヤイボニ大統領閣下は、昨年、日本に二回の公式訪問をされています。最初の来日は3月で、通常の公式訪問でしたが、二回目は6月に開催されたアフリカ開発会議 TICAD Vに参加する目的での来日でした。

無償または融資の形で受け取る日本の政府開発援助（ODA）はどちらも、ベナンの経済インフラ、母子の保健衛生システム、教育施設整備、農業拡張事業に充てられ、その目に見える改善に、ここ数年、ベナンにとっては無くてはならない大変重要なものとなっております。駐日特命全権大使として私が目指していることは、日本とベナン共和国間のこのポジティブで互恵的な関係をさらに改善し、拡大していくことです。

また、ベナン新政権の高官数名が日本を訪れ、日本のカウンターパートと協議する機会や反対に日本政府の経験豊富な議員、中でも法務副大臣がベナンを訪問する機会等も与えられました。

ベナン共和国の開発ニーズに何が 필요한のか？その適切な対応を策定するために、政府高官らは 順々にベナンを訪れ、現地の状況に直に触れ、知識と理解を深めています。

前述のように、ベナンへの日本の ODA は、過去数年間に渡る効率的な港湾事業にもみられますように、社会経済インフラの基礎を築く上でも大変役に立っています。

投資家を歓迎します

ベナン共和国の復興、その人口のニーズと願望をフルに満たすための負担を日本政府だけに負わせるわけにはいきません。

経団連、独立行政法人日本貿易振興機構 JETRO、NPO や NGO 等の市民団体といった民間セクターに幅広く、それぞれが持てる膨大な財、資源、専門知識をどんどんベナン市場に投資して頂きたいと思っております。

ベナンが消費者 3.5 億人を抱える ECOWAS（西アフリカ諸国経済共同体）の玄関

口に位置していることを忘れないで頂きたいと思います。

とりわけ今年1月の奥野信亮法務副大臣のベナン共和国訪問は両国政府及びベナンの国民に歓迎されました。このような訪問が貧困を減らせ、ベナンのみならず西アフリカ諸国、さらにはアフリカ大陸全体が抱える不満や緊張を緩和するのに役立つのです。ベナンは、第一次産業の農業から第三次のサービス産業に至るすべての分野において、日本の投資家の出番を待っております。

貿易量を増やし、よりバランスの取れた経済関係に向けて共働していくことが、お互いの国の利益に繋がることは明白です。（ベナンにはオイル、綿、金鉱、宝飾石、パイナップル、シアバター等々の資源が埋もれています）

日本及びアジア太平洋諸国の民間セクターにおける投資家や起業家に対して、私が声を大にしてひとつ申し上げたいことは、日本の近隣に位置する東南アジアの国々を見て欲しい、ということです。これらの国々は、積極的に、アフリカのいまだ手付かずの未開発資源の投資機会を、たとえそこですでに日本政府が公的提携しているものでも、開発に繋がるとして虎視眈々と狙っているのです。（ベナン共和国の土壌には様々な天然の原料が埋もれています）

ベナンの経済的なポジションは、前述の ECOWAS（西アフリカ諸国経済共同体）の大規模市場加盟により強化されました。ベナンの経済的潜在力とその人的資源を考慮すると、私は、両国間の協力は今後確実に強化され、多くの民間セクターの活動、とりわけ観光、科学技術、最先端情報通信技術、繊維、エネルギー、気候変動といった分野に広がりを見せていくものと確信しています。そしてそこには利益を生む真の提携関係を結ぶ機会が提供されているのです。

精神的な繋がりがもたらすもの

私は、JICA（国際協力機構）を通じてもたらされた技術支援、海外青年協力隊の日本人ボランティアの働き、ベナンで唯一日本語を教える学校、“たけし日本語学校”を支えるベナンのNGO“ベナンイフェ財団”の活動を、この場をお借りして讃えたいと思います。（この学校は、アフリカで唯一日本語が無料で学べる学校で、語学のみならず、日本の文化や歴史も教えています）。

そのおかげで現在、農業、科学、医学、情報技術を専攻している多くのベナン人学生が日本各地の大学やその他の教育機関で学んでいるのです。

ベナンと日本は宗教的な価値観においても類似性が見られ（ベナンのブーズー教と日本の神道）、言語においても（例えばベナンのヨルバ語やフォン語には日本語の単語に似ている言葉が多く見られます）類似点が見られます。

日本人観光客もベナンは大歓迎です。ベナン南部の都市では、奴隷貿易や植民地支配されていた頃の歴史を物語る史跡"帰らずの門"、ユネスコ世界遺産として登録された有

名なアボメイ王国の王宮等が見られます。

また、ベナン中央ではダッサズーメのカトリック巡礼地、さらにベナン北部では豊かな自然景観とサバンナの野生動物、そしてベナンの人々の温かいおもてなしが皆様を魅了することでしょう。

どうもありがとうございました。

神の祝福が皆様に豊かにありますように。

尚、ベナン大使館の公式ウェブサイトからベナン大使館にアクセスできます。

www.beninembassy.jp

駐日ベナン共和国大使館

〒162-0845

東京都新宿区市谷本村町 3-25、市ヶ谷リンデンビル 2 F